

「ボランティア・市民活動マッチングプログラム」

開催のご報告

「ボランティアをしてみたい」「市民活動に興味がある」といった方(希望者)と、そうした方を受け入れるNPOなどの団体(受入団体)とをマッチングして、活動体験に結び付けてもらおうという趣旨の企画を開催しました。

まず、9月から受入団体の募集を開始。応募した団体には、希望者が1日(3時間程度)のできる「活動体験メニュー」を準備していただきました。最終的には、福祉、まちづくり、環境保全、子どもの育成など、多様な分野の19の受入団体が集まりました。



これらとほぼ同時並行で、活動体験の希望者の募集もスタート。希望者と受入団体とが直接顔を合わせ、話をしたり聞いたりできる「マッチングイベント」(11月18日開催)への参加を呼びかけました。

そのマッチングイベントでは、すべての受入団体からの「PRタイム」と、参加者が受入団体のブースを自由に訪ねる「個別マッチングタイム」を設けました。残念ながら参加者数は多くはなかったものの、そのぶん複数の団体とゆっくりと話をする時間がとれたようです。また、受入団体同士での会話が盛り上がるシーンが多く見られ、新たなつながりも生まれたようでした。



本プログラムは、次年度も開催予定です。高校や大学等への周知に力を入れるとともに、マッチングイベントの開催時期等も見直し、多くの希望者が集まる企画に育てていきたいと思いますので、どうぞご注目ください！

シニア世代の地域活動促進セミナー

「地域活動は新時代へ」[1日目] 開催報告

シニアの方に、ボランティアやNPOなど地域活動の魅力を知ってもらい、参加のきっかけとしてもらうことを

ねらいとした2日連続セミナーの1日目(基調講演、パネルディスカッションなど)を、12月11日に開催しました。



講師の佐藤修さんによる基調講演は、とても濃密で印象的な内容でした。入社25年目で「生き方を変えよう」と会社を辞めた佐藤さん。地域活動との出会いは偶然だったようですが、以後、様々な“物語”がありました。その経験から、「原点は誰かのためでなく自分のためよい」「動き出すと仲間が見えてくる」と言います。パネリストの方々も、地域活動に関わったきっかけは様々ですが、活動を通じて横のつながりができ、そのことで生まれた新しい“物語”を楽しんでいるようでした。意見交換からも、活動への参加のヒントなど、たくさんの示唆をいただきました。

2日目は、活動団体の事例紹介を中心とした内容で、1月15日に開催します。詳しくはお問い合わせください。

まちボラ講座開催中！

千葉市のおもてなし度向上を目的として、まちなかでのボランティアを育成するための事業「まちなかボランティア養成講座」、継続的に開催中です。11月11日に千葉市国際交流プラザ会議室で開催された3回目の講義には、33人が参加。5人の講師からコミュニケーションのノウハウや情報の入手方法など7つの項目を習得しました。次回の講義は、2月17日午後1時30分から、きぼーる11階の中央保健福祉センター大会議室で定員60名で開催予定です。



通算5回目となる実習は、11月18日に千葉市民活動フェスタ会場のきぼーるアトリウムで実施され、事前に講義を受けた78人の中から19人が参加、4名のキャストとのコミュニケーションを体験しました。次回の実習は3月25日の「大道芸フェスティバルinちば」(会場：中央公園及びその周辺)です。

ミニコラム

ちばさぽの風 vol.23

去年の10月から12月頃にかけては、千葉市民活動フェスタなど大きな事業が複数あった他、急な依頼もあったりしたため、かなり慌ただしく過ごしました。反省点は多々ありますが、結構“頑張った”かなと、タイムカードを見返して思っているところです。

ところで、この“頑張る”という言葉を使うことについて、自分はあるきっかけで、ずっとデリケートになっていました。東日本大震災の時、「頑張れ東北」というスローガンに対して、「頑張れない人だっている。」「これ以上何を頑張れというのか?」といった声を耳にしてからです。他人に対して使うことは極力避け、また自分に対しても“頑張った”などと軽々しく言わないようにしていました。

そんなある日、お世話になっている人からのメールに、「頑張ってください。」というメッセージとともに、「最近“頑張る”という言葉が悪者化されているが、頑張れないよ

“頑張る”ということ

うではいい人生も送れない。」「他人と比べるのではなく、自分でベストを尽くすのが“頑張る”ということだと思おう。」といった趣旨の言葉が添えられていました。まさに目から鱗でした。

成果主義が導入されている企業などでは、ベストを尽くしても結果として現れなければ、評価に反映されないのかもしれませんが。ですが市民活動の世界では、やってみて、仮に結果が出なかったとしてもすぐにやめてしまわず、それを次に活かすことが大切です。新しいことをやってみただけでも、それは“頑張った”と言え、大いに評価されるべきだと強く感じます。

とは言え、ただ頑張っているだけでは、市民活動は広がっていかないでしょう。やはり、発信も頑張る必要があります。…とここまで書いて、“頑張る”という単語を10回以上使っていることに気づきました。さすがにちょっと、頑張る気が失せてしまいそうです(苦笑)。(は)